

薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2015年10月）

【医薬品一般】

Q：セロトニンは便秘に関係するか？（一般）

A：ヒト生体内のセロトニンは、胃腸管に90%、血小板に8%、松果体や脳神経に1～2%存在し、神経伝達物質として、腸管蠕動運動、血管収縮、血小板凝集等の生理的役割を有する。消化管壁には多様なセロトニン受容体が発現し、低濃度のセロトニンで胃腸管運動は亢進する。従って、消化管におけるセロトニンの作用が抑制されると、胃腸管運動が低下し、便秘になる可能性がある。

Q：骨粗鬆症に対するビスホスホネート系薬の投与継続期間の目安は？（薬局）

A：ビスホスホネート系薬（BP系薬）は、破骨細胞にアポトーシスを惹起して破骨細胞性骨吸収を強力に抑制する。その結果、骨形成も抑制され低骨代謝回転となるため、長期使用により非定型大腿骨骨折や顎骨壊死の発生リスクが上昇する可能性が指摘されている。BP系薬は中止後も骨に沈着し、一定期間は骨折抑制効果が持続することが知られている。従って、3～5年間の治療継続後に骨折リスクを評価し、骨折リスクが低下していたら、BP系薬の休薬を検討することが提唱されている。ただし、休薬後は骨折リスクが上昇する危険性があるため、他の骨粗鬆症治療薬の使用や、骨密度の減少・骨代謝マーカーの上昇がみられたらBP系薬の再開を検討する。

Q：抗生物質の服用により、カンジダ膣炎になることはあるか？（薬局）

A：膣内は、エストロゲンの作用で膣上皮細胞の細胞質内にグリコーゲンが豊富に蓄えられ、常在菌（デーデルライン桿菌、SNOMED-E1877）により、グリコーゲンから乳酸を産生し、pHは酸性（pH4～5）に保たれている。しかし、デーデルライン桿菌は、セフェム系、セファロスポリン系、ペニシリン系、テトラサイクリン系などほとんどの抗生物質に感受性を示す。従って、膣内の細菌叢が変化しpHを酸性に保てず、カンジダ属が増殖し（菌交代現象）、二次的にカンジダ膣炎を引き起こす可能性がある。通常の投与量であれば、カンジダ膣炎を引き起こすことは稀であるが、罹患しやすさには個人差がある。

Q：中性脂肪値がとても高く、検査値のコメントに「乳び」と書いてあるが何か？（薬局）

A：「乳び」とは、血清等の検体が乳白色を呈していることを示す所見で、食後に時間を置かずに採血した場合に、脂肪があまり分解されずに血液中に残っているため、その脂肪分によって白く見える。原因のほとんどは食後に一過性に増加するカイロミクロンのため、中性脂肪値が高くなる場合があり、総蛋白、総ビリルビン、直接ビリルビン、尿酸等の検査値に影響を与えることがある。コメントに「乳び」と書いてある場合は、食事の時間と脂質項目の確認が必要である。高脂血症の診断や治療効果の評価では、検査前少なくとも12時間絶食した空腹時に採血する。

Q：ピオクタニン液の市販品はあるか？（薬局）

A：薬価基準に収載があるのは、（局）メチルロザニリン塩化物（別名：ピオクタニン、ゲンチアナバイオレット、クリスタルバイオレット）のみである。市販品には「口腔内の消毒・殺菌」の適応で、一般用医薬品（第3類医薬品）の0.2%ピオクタニン液「ホンゾウ」（本草製薬）がある。

### 【安全性情報】

Q：検査でブスコパン™を使用してから尿の出が悪くなった。どのくらい続くか？（一般）

A：薬剤性排尿障害は、ブスコパン™等の抗コリン作用薬、感冒薬、抗精神病薬、麻薬等で起こる。抗コリン作用を有する薬剤は、副交感神経遮断により膀胱平滑筋を弛緩あるいは外尿道括約筋を収縮して尿道抵抗を増大させ、排尿困難を起こす。感冒薬や抗コリン薬は、服用7日以内に発症し、中止後7日以内に回復する。抗うつ薬や抗精神病薬は、服用後7日以上経過して発症した症例や長期服用中にも起こり、回復に7日以上 of 長期間を要する場合が多い。

Q：全自動麻雀卓はペースメーカーに影響を及ぼすか？（薬局）

A：ペースメーカーは強い電波、電気、磁気により影響を受けることがあり、これを電磁干渉という。通常一過性で、日常生活でペースメーカーの故障の原因になるような強い電磁波にさらされることはない。しかし、全自動麻雀卓は磁気内蔵機器で常に強力な磁気を発生するので、使用せずかつ近づかないように注意する。

### 【その他】

Q：リウマチの検査のRF定量とは？（一般）

A：リウマトイド因子（Rheumatoid factor：RF）は、関節リウマチ（Rheumatoid arthritis：RA）の患者の血清および関節液中等に存在する変性IgGに対する自己抗体である。RA全体の約70%で検出されるが、早期RAでの陽性率は50%以下である。またRFは健常人でも数%で陽性を示し、RA以外の膠原病など多数の疾患でも陽性となるため、疾患特異性は必ずしも高くない。また、RF値がRAの活動性と相関する症例は必ずしも多くない。しかし、免疫調整剤（ブシラミン、オーラノフィン）等の投与により、RF値の低下を認めた報告があり、RF定量はRAの活動性の指標として临床上重要な意義をもつと考えられる。

Q：教室の最適な温度と相対湿度は？（薬局）

A：「学校環境衛生基準」では、温度は、冬は10℃以上、夏は30℃以下を保持する必要がある。児童生徒等に生理的・心理的に負担をかけない学習に専念できる条件として、推奨値は冬季で18～20℃、夏季で25～28℃である。相対湿度は、自然換気で30～80%の範囲を維持することが必要だが、望ましくは50～60%の範囲を維持する。

Q : オノマトペとは？（薬局）

A : オノマトペ（仏 : onomatopée）とは、擬声語（擬音語、擬態語）を意味するフランス語である。医療では患者が医師に痛み等を伝える際によく使われる。例えば、痛みのオノマトペは、「ズキズキ」「ジンジン」「キリキリ」等があるが、「ズキズキ」が最も表現割合が多く、表現される疾患として、片頭痛、肩関節周囲炎、座骨神経痛、頸椎症等がある。

Q : 死亡患者の家族から返却された麻薬の処理方法は？（薬局）

A : 麻薬処方せんにより交付された麻薬を、患者の死亡等により遺族等から譲り受けた場合は、麻薬小売業者（薬局開設者）自ら、若しくは管理薬剤師が、他の薬剤師又は職員の立会いの下に廃棄する。廃棄は焼却、放流、酸・アルカリによる分解、希釈、他の薬剤との混合等、麻薬の回収が困難な適切な方法で行う。

廃棄後30日以内に「調剤済麻薬廃棄届」を都道府県知事に提出する。30日以内であれば、その間の複数の廃棄をまとめて1つの届出書で提出しても差し支えない。さらに、麻薬帳簿にその旨を記載するか廃棄用の補助簿を作成して記録する必要がある。

（薬局における麻薬管理マニュアル 平成23年4月 厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課より）